

日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 食料科学委員会・農学委員会PSA分科会

更新日 2012/9/11

(2009/05/01の形式)

国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 太平洋学術協会

(欧文) Pacific Science Association

(略称) PSA

日本学術会議加入年(西暦) 1926 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) Pacific Science Council

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	Lewis, Nancy	空席	Chou, Chang Hung	土屋 誠
(国)	アメリカ		台湾	日本

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

2年に1度の総会にて選出する。(任期:4年)

加入国・地域の数 18 ヶ国

主要加入国(10ヶ国程度を列举)

オーストラリア、中国、フランス、日本、沖縄、韓国、フィジー、ロシア、イギリス、アメリカ、マレーシア

国際学術団体のホームページURL www.pacificscience.org

国際学術団体の年間運営経費 US\$29,884.30

日本の分担予定額[事務局で記入] 810千円(2012年度)

国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/ 協賛の有無
2011	第22回太平洋学術会議	マレーシア クアラル ンプール	800	16	
2009	第11回太平洋学術会議 中間会議	フレンチポリネシア(タ ヒチ)	733	40	日本学術会議
2007	第21回太平洋学術会議	日本 沖縄	861	527	日本学術会議
2002	第20回太平洋学術会議	タイ バンコク	470	14	
2000	第19回太平洋学術会議 中間会議	アメリカ グアム	400	29	

運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2011	太平洋学術会議理事会、 評議会	マレーシア	14	黒川 清	2
2009	太平洋学術会議評議会	フレンチポリネシア(タ ヒチ)	16	谷口 旭	0
2008	太平洋学術会議理事会	マレーシア	10	土屋 誠	0
2007	太平洋学術会議評議会	沖縄 日本	16	尾本恵一	0
2005	太平洋学術会議理事会	ベトナム	6	尾本恵一	1

出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

The Journal of Pacific Science(www.bioOne.org) Biodiversity Assessment of Tropical Island Ecosystems: BABITRA Manual for Interactive Ecology and Management was published by Bishop Museum Press in 2008.

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

<p style="text-align: center;">国際機関等の提唱で行った活動</p> <p>海洋の酸性化に関する会議の主催。太平洋域における地球温暖化の防止活動。熱帯太平洋島嶼域の生物多様性機能研究の推進。</p>
<p style="text-align: center;">国際機関等への提言等</p> <p>連携して活動している多くの学術機関に対して、海洋の酸性化問題、太平洋域における地域温暖化の防止、熱帯太平洋島嶼域の生物多様性機能研究の推進。</p>
<p style="text-align: center;">国際事業等への参加・実施等</p> <p>2011年6月14日～17日にマレーシアのクアラルンプールで開かれた第22回太平洋学術会議に参加し、塚本勝巳教授（東大大気海洋研究所）にHATAI MEDALを授与した。</p>
<p style="text-align: center;">全世界的/地域的研究課題への取組み</p> <p>各登録期間を通して、感染症、生物多様性、海洋の酸性化、地球温暖化等の全世界的な課題に対する対応策を検討している。</p>
<p style="text-align: center;">発展途上国への対応</p> <p>持続的な発展を目指して科学者がどのような活動をすべきかに関する提案をするための資料収集を継続して行っている。</p>

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

<p>地球温暖化、海洋の酸性化、生物多様性、健康問題、性差別問題、太平洋島嶼国間のITネットワーク構築が重要課題である。</p>
--

国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
財務局長	土屋誠	2011	2013
指名委員/評議員	尾本恵一	2003	
評議員	森沢正昭	2003	
評議員	谷口旭	2003	

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 第2部食料科学委員会・農学委員会PSA分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

琉球大学(沖縄のPSA対応組織)

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
(社)日本水産学会	4500	http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsfs/
日本海洋学会		http://www.kaiyo-gakkai.jp/main/
日本生態学会		http://www.esj.ne.jp/esj/
日本サンゴ礁学会		http://wwwsoc.nii.ac.jp/jcrs/
日本島嶼学会	250	http://east-urawa.com/jsis/

学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名
所属分野別委員会

PSA分科会
食料科学委員会・農学委員会

分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
山内皓平	未定	未定	未定

会員数	連携会員数	特任連携会員数
1	7	0

分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

当分科会は、太平洋地域における共通の科学的関心及び優先事項を精査し、多分野にわたるフォーラムを設け、太平洋地域の諸国民の繁栄と福祉に直接影響する太平洋地域の科学的諸問題の研究を促進することにある。

今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2012/8/16	日本学術会議PSA分科会の22期委員長に山内皓平氏を選出した。
2011/2/5	第22回太平洋会議で授与される畑井メダルの受賞者に塚本勝巳氏を決定した。また、会議のセッションに「Sustainable Fisheries Management under the Warming Climate Regime」を設けることとした。
2009/2/18	20期までPSA分科会は第4部国際委員会に所属していたが、21期から第2部農学委員会に属する経過報告が、学術会議事務局から報告があった。新組織の下で、役員を選び、山内皓平氏を会長に選んだ。
2005/8/25	第21回太平洋学術会議、畑井メダル、研連活動の今後などについて
2005/7/7	畑井メダル保管と受賞者の選定
2005/3/3	第21回太平洋学術会議の日本開催について

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

2011年にマレーシアで開かれる第22回PSCで授賞予定の畑井メダルの受賞者選考に関し、関連学協会に選考委員を依頼し、「選考委員会」を行い授賞者を決定した。

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

関連分科会委員の参加を検討課題とした。

分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

2011年に開催される第22回PSCに向けての活動について活動について日本学術会議の関連分科会および関連学協会と協議を開始すべきである。